

報道発表資料
平成18年4月12日
気象庁

さくらの開花予想（第7回） (北海道地方)

〔概要〕

本年のさくらの開花は、北海道地方では平年並の地点が多い見込みです。

〔本文〕

さくらの開花は、一般的に気温が高いと早まり、気温が低いと遅くなります。今回の予想対象地域の2月からこれまでの気温は、平年並か平年より高く推移しました。また、今後の気温は平年並と予報されています。このため、本年のさくらの開花は、北海道地方では平年並の地点が多い見込みです。

なお、北海道地方のさくらの開花予想は、ソメイヨシノの生育地が限られているため、エゾヤマザクラ、チシマザクラを対象としている地点があります。

〔参考〕

1. さくらは、夏頃に翌春咲く花のもととなる花芽（かが）を形成し、休眠に入ります。花芽は冬の低温に一定期間さらされると休眠から覚めます（休眠打破）。花芽は休眠打破のあと温度の上昇とともに生長し開花します。

さくらの予想開花日は、過去の開花日と気温のデータから予想式を作成し、これに、昨年秋からの気温経過と気温予報をあてはめて求めています。なお、気温予報には週間予報、1か月予報及び3か月予報を用いています。

2. 開花とは花が5～6輪開いた状態のことです。さくらの開花は、一般的に標高が100m高くなるごとに約2～3日遅くなります。

また、今回発表した地域のさくらの開花から満開までの期間は約3～4日です。

なお、満開とは、花芽の約80%以上が開花した状態のことです。

3. さくらの開花を平年値（1971年～2000年の30年間の累年平均値）と比べる場合、「平年並」とは平年値との差が2日以内、「早い（遅い）」とは平年値より3日以上早い（遅い）ことをいいます。なお、「かなり早い（遅い）」とは平年値より7日以上早い（遅い）ことをいいます。

4. 開花予想は、各気象台や測候所の定めた標本木を対象としたもので、名所の開花とは異なることがあります。また、予想開花日には平均して前後2～3日程度の誤差があります。

資料1：2006年の各地のさくらの予想開花日（4月12日発表）

資料2：2006年のさくらの開花予想の等期日線図（4月12日発表）

今後のさくらの開花予想の発表は下表のとおりです。いずれも14時に発表する予定です。

	北海道
第8回（4月19日）	○

資料1 2006年の各地のさくらの開花予想(4月12日発表)

地点	予想 開花日	平年 開花日	平年 差	前年 開花日	前年 差	品種
【北海道地方】						
札幌	5 6	5 5	+1	5 10	-4	
稚内	5 17	5 16	+1	5 23	-6	エゾヤマザクラ
留萌	5 11	5 11	0	5 20	-9	エゾヤマザクラ
旭川	5 8	5 7	+1	5 14	-6	エゾヤマザクラ
網走	5 14	5 13	+1	5 21	-7	エゾヤマザクラ
岩見沢	5 6	5 4	+2	5 11	-5	エゾヤマザクラ
帯広	5 6	5 7	-1	5 4	+2	エゾヤマザクラ
釧路	5 16	5 18	-2	5 22	-6	エゾヤマザクラ
根室	5 19	5 20	-1	5 21	-2	チシマザクラ
室蘭	5 8	5 8	0	5 10	-2	
浦河	5 10	5 11	-1	5 16	-6	エゾヤマザクラ
江差	5 3	5 3	0	5 3	0	
函館	5 3	5 3	0	5 1	+2	
俱知安	5 11			5 14	-3	
紋別	5 14	5 12	+2	5 21	-7	エゾヤマザクラ

(注) 表中の平年差の「+」は平年より遅い、「-」は平年より早い、「0」は平年と同じことを表します。

資料2 2006年のさくらの開花予想の等期日線図(4月12日発表) (北海道地方)

